

アズマヒキガエルについて

町では、アズマヒキガエル・オタマジャクシ・卵の駆除を産卵時期（1～3月）を中心にを行いました。3月31日現在でカエルを1,232匹駆除し、前年度と比べ277匹増加しました。例年、大量発生している和泉親水公園は減少傾向にありますが、分布に関しては西見地区・富士中学校・富士見1地区を中心に大量発生が確認され、八丈全土での生態系への影響が懸念されます。

【必ず守ってください】

侵略的外来種によって元々そこに生息していた動植物を食べて駆逐することや、同じような食物や生息環境をもっている在来の種からそれらを横取りすることで、その土地の生態系を崩すという悪影響も懸念されます。動植物を安易に持ち込まないこと及び育てられなくなったからといって安易に放つことのないようにしてください。

【アズマヒキガエルの生態】

主に地面にいるミミズなどや大きめの生物を好んで食べ在来生物への影響を及ぼします。乾燥に強く繁殖期以外はほとんど水がいらず、雑木林や民家の庭などに生息します。居心地がいいと民家の庭などに住み付くこともあります。

産卵した卵は、紐状の透明な寒天質で内部に2,500～8,000個の黒い卵を内包しています。

オタマジャクシの期間は短く、小さい状態でカエルに変態し、すぐに陸上生活に移行できます。

【注意】

目の後ろにある耳腺（じせん）に毒を持っています。

毒がありますので、素手で触らないことが重要です。捕獲する場合は、必ずビニール製手袋等の保護具を必ず使用してください。

他のカエルは、俊敏ですぐに逃げてしまいますが、アズマヒキガエルは、逃げずに鈍足です。和泉親水公園付近でヒキガエルの死体を見ることがありますが、大抵は繁殖のために自分の生まれた池や沼に戻る途中で道路を横断することにより、車に踏まれてしまうためです。



池や水ためにカエルやオタマジャクシが現れたら、住民課環境係にご連絡をお願いします。

平成 28 年度アズマヒキガエル発生状況図

農林合同庁舎
カエル (11~3月)

西見2
カエル (6月・12~3月)

西見1
カエル (3月)

西見3
カエル (2~3月)
オタマジャクシ (3月)

富士見1
カエル (7月・3月)

富士中学校
カエル (4月・1~3月)
オタマジャクシ (4月)

和泉親水公園及び周辺
カエル (12~3月)

神子尾
カエル (6月)

